様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８ＫＫ０００６

研究課題名（和文）カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム

研究課題名（英文）Language-music interplay in Kalahari Khoe

研究代表者
中川　裕（Nakagawa, Hirosi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：７０２２７７５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グイ語とガナ語を事例として、カラハリ・コエの言語と歌の相互関係を解明することを目的とした。コロナ禍で現地調査は遅延したが、オンライン調査や東京滞在中の母語話者の協力によりデータ分析とアーカイブを拡充した。最終年度には現地調査を再開し、音楽と韻文の資料収集を完了した。特に、音素体系・音素配列論とポリリズムの関係に焦点を当て、音楽的および韻文的リズムと音韻構造の相互作用を明らかにした。また、シドニー大学やボツワナ大学の研究者との協働により、パンデミック対応の研究手法も模索した。この研究は、言語の維持や伝統的な歌の復興を含め、少数言語研究と民族音楽研究に新たな知見を提供するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、グイ語とガナ語における言語と音楽の相互関係を解明することで、音韻理論と民族音楽学の発展に貢献する点にある。特に、音素体系・音素配列論とポリリズムの関係の理解に新しい知見をもたらし、音楽的および韻文的リズムと音韻構造の相互作用を詳細に分析した。また、シドニー大学やボツワナ大学の研究者との協働により、パンデミック対応の研究手法を模索し、国際共同研究の新たなモデルを提示した。これにより、言語の維持や伝統的な歌の復興に向けた具体的な方法論を提供し、少数言語研究と民族音楽研究に新たな知見をもたらした。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to elucidate the relationship between language and song in the Kalahari-Khoe languages, focusing on G|ui and G||ana as case studies. Although fieldwork was delayed due to the COVID-19 pandemic, data analysis and archive expansion progressed through online surveys and the cooperation of native speakers residing in Tokyo. In the final year, fieldwork resumed, and the collection of music and poetic materials was completed. The study specifically examined the relationship between phonotactics, prosody, and polyrhythm, elucidating the interaction between musical and poetic rhythms and phonological structures. Additionally, collaboration with researchers from Australia and Botswana facilitated the development of research methods adapted to the global pandemic. This research provided new insights into minority language studies and the ethnomusicology of Kalahari-Khoe speakers, including efforts to preserve languages and revive traditional songs.

研究分野：言語学

キーワード：Kalahari Khoe　ethnomusic　phonology of songs　click　Kalahari hunter-gatherer

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、カラハリ・コエの言語と音楽の相互関係を解明することを目指している。特に、非常に豊富なクリック音の区別を音韻構造的な特徴とするグイ語とガナ語と、これらの話者たちの伝統的な歌・韻文を対象に、音韻論と民族音楽学の観点からその関係を探求する。これまでのコイサン研究では、音韻論と音楽の関係についての包括的な研究はほとんどなく、特にカラハリ・コエ諸語に関する研究は事実上皆無であった。これに対し、本研究では、過去に収集されたグイ音楽のアーカイブ編纂とフィールドワークを通じて、新たなデータを収集・分析する。また、シドニー大学やボツワナ大学との研究協力を通じて、国際的な視点からの学際的なアプローチを実現する。これにより、言語と音楽の相互作用に関する新たな知見を提供し、音韻論および民族音楽研究の発展に寄与すること、それと同時に、グイ・ガナ社会において廃れつつある伝統的な歌や韻文の記録と保存、さらに復興の可能性を探ることを、研究開始当初には計画していた。

２．研究の目的

本研究の目的は、カラハリ狩猟採集民のグイ・ガナ人の言語と歌に焦点を当てて、コイサン諸語カラハリ・コエ語派のグイ語およびガナ語の音韻構造と音楽的構造の相互関係を解明することである。特に、歌詞テキストにおけるクリック子音の使用の特色や音韻的韻律構造と、グイ・ガナの歌が有する特殊な律動構造との関係に焦点を当て、言語と音楽がどのように相互作用し、複雑なリズム構造を形成するかを明らかにする。これにより、言語学と音楽学の学際的な視点から、音韻論と音楽理論の新たな知見を提供する。また、グイ語およびガナ語の伝統的な歌の資料収集とアーカイブ化を進め、言語保存と文化復興の基盤を築くことを目指す。さらに、シドニー大学やボツワナ大学の研究者との国際協働を通じて、新しい調査手法を模索し、現地フィールドワークの実施とデータ分析の精度向上を図る。本研究は、言語と音楽の交差点にある未解明の領域に新たな光を当て、関連研究分野に重要な貢献を果たすことを目指している。

３．研究の方法

本研究は、グイ・ガナ語の音韻構造とグイ・ガナの歌の音楽構造の相互関係に関連する資料を2種類のアプローチで収集し、言語学的および音楽学的な解析を行い、両者を総合する。歌唱の録音・録画・表記を行い、歌の言語学的および音楽学的分析を行う。また歌に加えて、伝統的な口承文学的韻文の収集と分析も行う。具体的には、分節音韻論的な解析とともに、音素配列、韻律構造、声調的な分析を歌詞・韻文テキストを対象に行い、またそれと同時に音楽的な構造の分析と記述も実施する。さらに両者の対応や並行性、破格の分布などを詳細に観察する。クリックをはじめとするグイ語・ガナ語に特徴的な音類が歌詞や韻文のなかでどのような働きを担っているかにも特に注目する。

歌詞や音楽の分析には、母語話者の協力が欠かせない。フィールドでの母語話者との協働だけでなく、オンライン調査や東京滞在中の母語話者の協力を通じてデータの補完と分析を進める。さらに、シドニー大学やボツワナ大学の研究者と連携し、国際共同研究を行う。パンデミック対応の新たな調査手法を模索し、現地調査の精度を向上させる。

資料収集は、現地調査による一次資料の録音・録画と、過去に記録されたアナログ録音や映像資料の発掘的調査と電子ファイル化の二つの方法を用いる。特にコロナ禍で現地調査が難しい期間には、過去のアナログ資料のデジタル化と目録作成を進めた。これにより、過去のデータを現代的な形で保存・活用する基盤を築いた。

具体的な調査手順としては、(i)記録する歌と演者の選定、(ii)面談による歌のメタ情報記録、(iii)歌の実演の録画と録音、(iv)グイ人に対して録画・録音の再生をしながらの歌の記述作業：歌の音楽的転写と言語学的アノテーション、(v)歌の演者や聴衆に対する面談調査を行う。これにより、クリック音と手拍子のリズム形成の平行性や同期性を分析し、歌の構造的特徴が奏者にどのように認識されているかを探求する。

本研究は、さらに、言語保存と文化復興のための実践的な方法論を開発し、グイ語およびガナ語の音楽と韻文のアーカイブを構築することで、音韻論と民族音楽学の発展に貢献することを目指す。

４．研究成果

以下に、本研究の主な研究成果を述べる。

(1) 現地調査とデータ収集

現地調査では、グイ語とガナ語の話者による伝統的な歌唱を録音・録画し、詳細な言語学的および音楽学的分析の基礎となるデータベースを構築した。現地におけるコロナ感染の危険が増大したことで、現地調査は遅れがちで、研究期間も延長をしたが、最終年度には調査再開が可能となり、重要な一次資料の収集をひとまず締めくくることができた。具体的な分析として、音素

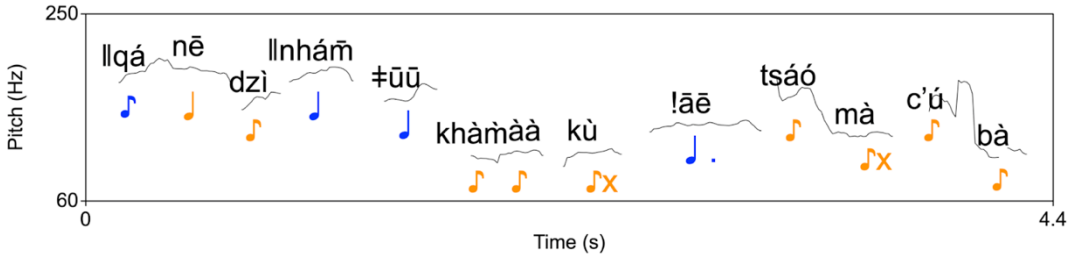
解析、音素配列論、韻律構造、ポリリズムの調査を通じて、音楽的リズムと音韻構造の相互作用を観察するために十分なデータセットを揃えることができた。

また、パンデミックの影響で現地調査が一時的に中断された期間には、過去に記録されたアナログ録音や映像資料の発掘的調査を行い、資料の電子ファイル化を進めた。この取り組みにより、1970 年代から 1990 年代にかけて収集された貴重な資料をデジタル化し、今日的な研究の基盤として活用できるようにした。これらの電子化資料は、研究の継続性を確保し、遠隔でのデータ解析を可能にするための重要なリソースとなる。

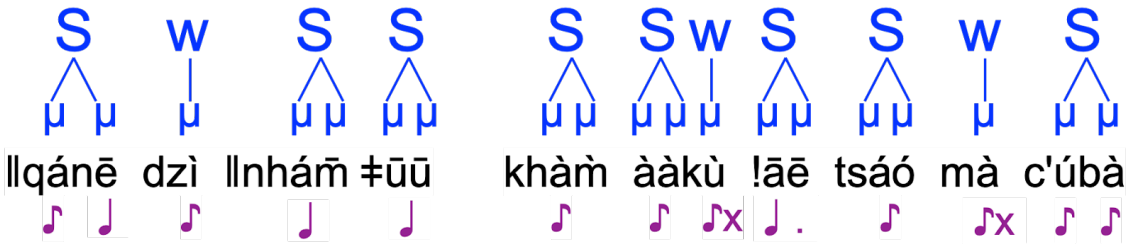
(2) 言語学的および音楽学的分析

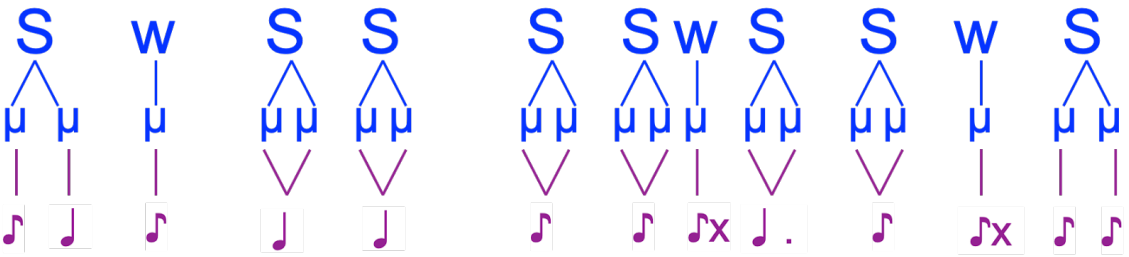
グイ語とガナ語の歌詞における音韻的単位の階層構造、音楽単位の階層構造、音節・拍・脚の音符への割り当て、詩的単位の分布、多層的な複合構造を解析した結果、音韻的特徴が音楽的リズムの形成にどのように関与するかという問題を解明する手掛かりを掴むことができた。

また、世界の他地域における声調言語の歌についても関心が払われている問題のひとつ、歌詞を構成する語の声調と歌の旋律との相関についての分析も行い、ある程度の一般化に成功した。明瞭に旋律をもつタイプのグイ・ガナの歌においては、隣接する語の声調間の相対的な高低関係が保持される傾向が認められた。たとえば、下図に示された一つの歌を観察すると、隣接する語が持つ声調の値（HM, L, HM, MM, LL, LL, L, MM, HH, L, HL）の間の違いがピッチ曲線のそれと相関を持つことがわかる。さらに、もうひとつ特筆すべきことは、クリック（図では、‖, ǂ, !が 4 箇所に現れる）の打楽器的音色が、音楽リズム（音符で表示）に重なりあい編み込まれることで、多重律動的なポリリズムを生み出していることが読み取れる点である。このような言語音の一部であるクリック音類が打楽器的に音楽の部品となることが、本研究の分析から浮かび上がってきた。



歌詞テキストの韻律構造においては、(i)歌詞がもつ言語的な韻律表示、(ii)歌がもつ音楽的なリズム表示、そして(i)から(ii)への(iii)割り当て操作（alignment）の三つのレベルがあることを明らかにした。たとえば、上図に示した歌の歌詞テキスト言語的な韻律は、下図の S（強）と w（弱）という値の連続と分析することができ、それらの値と拍（モーラ）との連合関係は両者の連結線で表現できる。これは(i)に関わる。一方で、各拍と音楽のリズム単位の対応関係は、下図の簡略音符と拍の間の連結線で表される。これは(ii)に関わる。この図から、言語的な韻律単位と音楽的なリズム単位との間にある写像関係を捉えることができる。これは(iii)に関わる。





この(iii)の割り当て操作の規則性については、ある程度の一般化に成功を収めた。それにより、歌詞と旋律の対応関係を示すモデルを提案できそうな見込みである。これは、言語と音楽の複雑な相互作用を理解するための新たな視点を提供することができる。

さらに、歌の歌詞だけではなく、伝統的な口承文芸としての韻文の構造についても、音韻論的・形態論的視点からの分析により、グイ・ガナの韻文の韻律類型には、強弱型（trochaic）と弱強型（iambic）が認められることを発見し、そして前者の頻度が高いことを確認した。また、破格的型は韻文構造上の何らかの境界に一致、あるいは境界を予告することが明らかになった。

(3) 共同研究と国際協力

シドニー大学やボツワナ大学の研究者との連携研究計画がコロナ禍に重なったことが、図らずも、パンデミック対応の新たな共同調査手法の模索につながった。また、特に、シドニー大学の民族音楽学・フィールド言語学の専門家との協力により、複雑なポリリズムの分析手法を洗練させることができた。また、ボツワナ大学の協力により、現地での調査許可を得て、効率的かつ効果的にデータ収集を行うことができた。これらの国際協力は、学術交流を深めるだけでなく、現地コミュニティとの信頼関係を構築する上でも重要な役割を果たした。

(4) 言語保存と文化復興

収集したデータを基に、グイ語およびガナ語の音楽と韻文のアーカイブを構築し、言語保存と文化復興のための実践的な方法論を開発した。これにより、伝統的な歌の記録を次世代に引き継ぐための基盤を築いた。また、現地の教育機関や文化団体と連携し、収集した資料を用いた教育プログラムを開発し、地域社会に貢献した。特に、若い世代が伝統的な文化を学び、それを維持・発展させるための教育資源として、アーカイブが重要な役割を果たすことが期待される。

(5) 学術的貢献

本研究は、言語学と音楽学の交差点にある未解明の領域に新たな光を当て、音韻論および民族音楽学の発展に大きく寄与した。特に、グイ語とガナ語に特有のクリック音とポリリズムの関係を詳細に解明することで、音韻理論と音楽理論の新たな知見を提供した。また、歌詞の声調と旋律の相関、および歌詞と旋律の割り当て操作についての一般化に成功することで、言語と音楽の調和のメカニズムについて新たな洞察を得た。さらに、韻文の構造に関する分析により、強弱型（trochaic）と弱強型（iambic）の韻律パターンが確認され、強弱型の頻度が高いことが明らかになった。また、破格型が韻文構造の境界に一致するか、それを予告することが観察された。これらの知見は、グイの歌の歌詞テキストの理解にも関連し、韻律構造と詩的表現のメカニズムの理解を深めるものである

加えて、本研究は、伝統的な歌の研究を通じて、文化遺産の保存と活用に関する新たな方法論を提供した。これにより、地域社会や学術コミュニティに対して、実践的かつ持続可能な文化保存のモデルを示すことができた。今後も、この研究成果を基にさらなる研究を進め、カラハリ・コエの文化と言語の理解を深めることが期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計46件（うち査読付論文　25件／うち国際共著　6件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 Nakagawa, Hirosi, Alena Witzlack-Makarevich, Daniel Auer, Anne-Maria Fehn, Linda Gerlach Ammann, Tom Gueldemann, Sylvanus Job, Florian Lionnet, Christfried Naumann, Hitomi Ono, Lee J. Pratchett	４．巻 —
２．論文標題 Towards a phonological typology of the Kalahari Basin Area languages	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Linguistic Typology	６．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/LINGTY-2022-0047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 松平勇二	４．巻 100
２．論文標題 書評：川瀬慈著『エチオピア高原の吟遊詩人－うたに生きる者たち』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 アフリカ研究	６．最初と最後の頁 127～129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

１．著者名 松平勇二，中川裕	４．巻 -
２．論文標題 カラハリ狩猟採集民グイ人の歌	５．発行年 2022年
３．雑誌名 山口裕之・橋本雄一編『地球の音楽』東京外国語大学出版会	６．最初と最後の頁 163～168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

１．著者名 松平勇二	４．巻 -
２．論文標題 ショナ社会における音楽的才能の霊性―マシャウィ儀礼の事例から	５．発行年 2021年
３．雑誌名 野澤豊一・川瀬慈編『音楽の未明からの思考――ミュージッキングを超えて』アルテスパブリッシング	６．最初と最後の頁 247～265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 Takada Akira	4．巻 181
2．論文標題 Pragmatic reframing from distress to playfulness: !Xun caregiver responses to infant crying	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Pragmatics	6．最初と最後の頁 180～195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pragma.2021.05.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Joulian, F., Shimada, M., Takada, A., & Tian, X.	4．巻 76
2．論文標題 Waza on the move ou l'art ineffable de l'apprentissage: Introduction	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Techniques & Culture	6．最初と最後の頁 10～23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Takada Akira	4．巻 76
2．論文標題 L ’ imagination anthropologique par le dessin: Croquis des jeux d ’ enfants san en Afrique australe (Anthropological imagination through drawing: Depicting playful childhood activities among the San of Southern Africa)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Techniques & Culture	6．最初と最後の頁 56～69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takada, Akira & Yukari Sugiyama	4．巻 -
2．論文標題 Imagination on the Past and Memory for the Future: Re-Establishment of the Lifeworld through Rituals Among the G?ui/G?ana	5．発行年 2022年
3．雑誌名 C. Greiner, S. Van Wolputte, & M. Bollig (Eds.), African Futures. Brill	6．最初と最後の頁 347～355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/9789004471641_030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takada Akira、Miyake Erika	4．巻 -
2．論文標題 Changes in Ethnicity and Land Rights Among the !Xun of North-Central Namibia	5．発行年 2021年
3．雑誌名 A. S. Steinforth, & S. Klocke-Daffa (eds.), Challenging authorities: Ethnographies of legitimacy and power in eastern and southern Africa. Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan	6．最初と最後の頁 245～266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-76924-6_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa	4．巻 I
2．論文標題 Coronal stop series in the Kalahari Basin Area	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6．最初と最後の頁 66～67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa	4．巻 II
2．論文標題 Grammatical relations in the Kalahari Basin Area	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6．最初と最後の頁 41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤 幹治，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：受動表現	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 335-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤 幹治，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：アスペクト	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 343-352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤 幹治，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：モダリティ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 353-360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤 幹治，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：ヴォイスとその周辺	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 361-369
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 木村 公彦，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：他動性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 371-388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 木村 公彦，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：[連用修飾的]複文	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 389-398
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 木村 公彦，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：情報表示の諸要素	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 399-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 木村 公彦，中川 裕，大野 仁美	4．巻 25
2．論文標題 グイ語資料：所有・存在表現	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語学研究所論集	6．最初と最後の頁 409-417
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kimura, Kimihiko, Hirosi Nakagawa	4．巻 NA
2．論文標題 Coronal stop series in the Kalahari Basin area.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Papers from the first meeting of ILCAA Joint Research Project “Studies in Asian and African Geolinguistics”.	6．最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Leepile, T. T., Mokomo, K., Bolaane, M. M. M., Andrew, J. D., Takada, A., Black, J. L., Jovel, E., and Karakochuk, C. D.	4．巻 13(4)
2．論文標題 Anemia prevalence and anthropometric status of indigenous women and young children in rural Botswana: The San people	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Nutrients	6．最初と最後の頁 1015
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/nu13041105	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 高田明	4．巻 NA
2．論文標題 人類学から考える子守唄と遊戯的な歌：南部アフリカのサンにおける養育者-子ども間相互行為の事例から	5．発行年 2020年
3．雑誌名 今川恭子(編著)，わたしたちに音楽がある理由：音楽性の学際的探究．東京：音楽之友社	6．最初と最後の頁 88-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 安藤寿康、明和政子、橋彌和秀、亀井伸孝、中尾央、長谷川眞理子、高田明	4．巻 58
2．論文標題 教育の生物学的基盤：進化か文化か	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教育心理学年報	6．最初と最後の頁 284-290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5926/arepj.58.284	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2020年3月号
2．論文標題 子育ての自然誌：狩猟採集社会からの眼差し（二四）：子育ての危機再考	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2020年2月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（二三）: 社会変容と社会化(1)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2020年1月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（二二）: 遊びから仕事への移行	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年12月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（二一）: 歌・踊り活動における参与枠組みと関与	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年11月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（二〇）: 集団活動における社会化	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年10月号
2．論文標題 子育ての自然誌：狩猟採集社会からの眼差し（十九）：「文化学習」再考	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年9月号
2．論文標題 子育ての自然誌：狩猟採集社会からの眼差し（十八）：第二次間主観性の成立と模倣	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年8月号
2．論文標題 子育ての自然誌：狩猟採集社会からの眼差し（十七）：共に「話す」ことと「うたう」こと	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年7月号
2．論文標題 子育ての自然誌：狩猟採集社会からの眼差し（十六）：共同注意の発達と初期音声コミュニケーション	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年6月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（十五）: 生得的コンピテンスと周囲からの働きかけ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年5月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（十四）: 乳児の反射を利用した養育行動	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 2019年4月号
2．論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し（十三）: 養育者-子ども間相互行為の発達	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 -
2．論文標題 文化の中で育つ・育てることと音楽	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本音楽教育学会(編)，音楽教育研究ハンドブック	6．最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takada, Akira	4．巻 -
2．論文標題 Diversity in child-rearing practices among the San: Characteristics of gymnastic behaviour among the G|ui/G||ana	5．発行年 2019年
3．雑誌名 K. Beyer, G. Boden, B. Koehler, & U. Zoch (Eds.), Linguistics across Africa: Festschrift for Rainer Vossen	6．最初と最後の頁 335-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田明	4．巻 -
2．論文標題 子どもと大人: 私たちの来し方、行く先を見つめ直す	5．発行年 2019年
3．雑誌名 松村圭一郎・中川理・石井美保(編), 文化人類学の思考法	6．最初と最後の頁 140-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakagawa, Hirosi	4．巻 98
2．論文標題 Linguistic and music ethnography of Kalahari Khoe	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Area and Culture Studies	6．最初と最後の頁 191-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/93959	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Witzlack-Makarevich, Alena, Nakagawa Hirosi	4．巻 -
2．論文標題 Linguistic Features and Typologies in Languages Commonly Referred to as ‘Khoisan’	5．発行年 2019年
3．雑誌名 H. Ekkehard Wolff (ed.) The Cambridge Handbook of African Linguistics	6．最初と最後の頁 382-416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/9781108283991.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Vladimir Bajic, Chiara Barbieri, Alexander Huebner, Tom Gueldemann, Christfried Naumann, Linda Gerlach, Falko Berthold, Hirosi Nakagawa, Sununguko W. Mpoloka, Lutz Roewer, Josephine Purps, Mark Stoneking and Brigitte Pakendorf	4．巻 167
2．論文標題 Genetic structure and sex-biased gene flow in the history of southern African populations.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6．最初と最後の頁 656-671
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ajpa.23694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 GUELDEMANN, Tom, NAKAGAWA, Hirosi	4．巻 24
2．論文標題 Anthony Traill and the holistic approach to Kalahari Basin sound design	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Africana Linguistica	6．最初と最後の頁 45-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2143/AL.24.0.3285491	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Witzlack-Makarevich, Alena & Hirosi Nakagawa	4．巻 -
2．論文標題 Linguistic features and typologies in languages commonly referred to as ‘Khoisan’	5．発行年 2019年
3．雑誌名 In Ekkehard Wolff (ed.), The Cambridge Handbook of African Linguistics	6．最初と最後の頁 382-415
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 大野仁美	4．巻 16
2．論文標題 グイ語の語順とWh疑問文	5．発行年 2018年
3．雑誌名 言語と文明	6．最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田 明・片桐恭弘・片岡邦好	4．巻 21
2．論文標題 20周年記念パネル・ディスカッション「相互行為エンジン仮説」の妥当性と未来: 多分野からの検証と提言	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会言語科学	6．最初と最後の頁 407-420
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松平勇二	4．巻 7
2．論文標題 ジンバブエのラメラフォン『ンビラ』の作製・調律技術	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計28件（うち招待講演　5件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 Hirosi Nakagawa
2．発表標題 A phonesthemic vowel feature in G|ui
3．学会等名 KBA Riezlern 2022（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 中川裕
2．発表標題 コイサン諸語のクリック子音の音韻分析：SPEと単一音素分析の系譜
3．学会等名 日本英語学会第40回大会 特別シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Lee Pratchett, Alena Witzlack-Makarevich, Linda Ammann, Daniel Auer, Anne-Maria Fehn, Tom Gueldemann, Sylvanus Job, Florian Lionnet, Christfried Naumann, Hitomi Ono, Hirosi Nakagawa
２．発表標題 Typological features of Consonants in Khoisan languages of the Kalahari Basin Area
３．学会等名 Francqui International Professorship Symposium: The Diversity and Documentation of Speech Sounds in Languages of the World（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 ラメラフォン（親指ピアノ）音楽への誘い
３．学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー
４．発表年 2022年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 地球の音楽(3)　カンテ・フラメンコ、南部アフリカの音楽、ミャンマーの音楽
３．学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー
４．発表年 2022年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 グイ・ヒーリングダンスのリズム分析
３．学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 高田明
２．発表標題 音楽性の学際的探究からの提言：「音楽的な子どもたち」に導かれる発達観へ
３．学会等名 日本発達心理学会第33回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中川 裕，木村 公彦
２．発表標題 カラハリ狩猟採集民のための持続可能な識字活動基盤：スマートフォンとSNSを用いたグイ語正書法の普及と企画
３．学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川裕
２．発表標題 多数のクリック子音をもつ言語は音韻体系をどう組織化するか：“ コイサン ”諸語の子音・母音・音素配列
３．学会等名 日本音声学会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川 裕，加藤 幹治，木村 公彦
２．発表標題 菅原データ：初のコイサン自然会話コーパス
３．学会等名 本言語学会第163回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 カラハリ狩猟採集民グイのラメラフォン「ルンバ」の楽曲分析
３．学会等名 ポピュラー音楽学会第32回年次大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 グイのラメラフォンの構造的変化
３．学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川 裕，アレナ ウィツラック=マカレヴィチ，木村 公彦
２．発表標題 言語音の限界縁：カラハリ言語帯音韻類型論
３．学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川裕
２．発表標題 言語音の外延のより良い理解のために：カラハリ言語帯音韻類型論
３．学会等名 NINJALコロキウム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Matsuhira, Yuji
２．発表標題 Potentials of African Music - A Case of Zimbabwean Music in Japan
３．学会等名 9th African Forum（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松平勇二
２．発表標題 ショナのムズィム信仰から「才能」を考える
３．学会等名 第56回日本アフリカ学会学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高田明
２．発表標題 人類学から考える子守唄と遊戯的な歌：南部アフリカのサンにおける養育者-子ども間相互行為の事例から
３．学会等名 日本赤ちゃん学会第19回学術集会プレコングレス「子守唄を歌うのは誰 ― 寝かすことと寝ること」における話題提供（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takada, Akira
２．発表標題 Caregiver's vocal and embodied responses to infant crying among the !Xun of north-central Namibia
３．学会等名 the 16th International Pragmatics Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高田明
２．発表標題 環境に連結したジェスチャーと指示詞：グイ／ガナの道探索実践の事例から
３．学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takada, Akira
２．発表標題 Cultural diversity and universality in infant-caregiver interaction: Evidences from the San of southern Africa
３．学会等名 the 2019 SPA Biennial（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Witzlack-Makarevich, Alena and Hirosi Nakagawa
２．発表標題 Khoisan phonological typology database and the relative frequencies of consonants in the Khoisan languages
３．学会等名 13th Conference of the Association for Linguistic Typology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakagawa, Hirosi
２．発表標題 History of tonal interaction across paradigms: new findings from Khoisan tonology
３．学会等名 International Conference on Historical Linguistics (ICHL24)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中川裕
２．発表標題 カラハリ狩猟採集民の言語におけるユ ニークな音象徴
３．学会等名 日本アフリカ学会第５６回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中川裕、アレナ・ウィツラック=マカレヴィチ、木村公彦
２．発表標題 言語音の限界縁：カラハリ言語帯音韻類型論
３．学会等名 日本アフリカ学会第５７回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川 裕
２．発表標題 カラハリ狩猟採集民の言語における飲食動詞の類型論的特徴
３．学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中川 裕
２．発表標題 声調交替のパラディグマティックな説明：グイ語における２つの畳語パラダイムの相互作用音韻史
３．学会等名 日本言語学会第156回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中川 裕
２．発表標題 くちあたりの音象徴の言語相対性と普遍性：コイサン事例研究
３．学会等名 『外国語と日本語との対照言語学的研究』第25 回研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakagawa, Hirosi
２．発表標題 Click acquisition in G|ui
３．学会等名 The 9th World Congress of African Linguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計3件

１．著者名 Jiro Tanaka	４．発行年 2023年
２．出版社 Kyoto University Press & Trans Pacific Press	５．総ページ数 258
３．書名 Bushman Folktales: a collection of G||ana myths and fables	

１．著者名 Takada, Akira	４．発行年 2020年
２．出版社 Palgrave Macmillan	５．総ページ数 269
３．書名 The ecology of playful childhood: Caregiver-child interactions among the San of southern Africa	

１．著者名 Nakagawa, Hirosi and Andy Chebanne (eds.)	４．発行年 2018年
２．出版社 Ruediger Koeppe Verlag	５．総ページ数 318
３．書名 [Anthony Traill's posthumous manuscript] A Trilingual !Xoo Dictionary: !Xoo-English-Setswana.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高田　明 (Takada Akira) (70378826)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	松平　勇二 (Matsuhira Yuji) (90649386)	ノートルダム清心女子大学・国際文化学部・准教授 (35305)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ボツワナ	The University of Botswana			
オーストラリア	The University of Sydney			